

【 聖神降臨聖堂のトロパリ 第8調 】



あがめほめらるるかなハリストスわれらのかみ
崇 讃 哉 我 等 神
よ、なんぢはぎよしゃにせいしんをつかわしてえい
爾 漁 者 聖 神 遣 睿
ちしゃとなし、かれらをもつてせかいをぎよし
智 者 為 彼 等 以 世 界 漁
えたり、ひとをあいするしゅよ、こう、
得 人 愛 主 光
えいはなんぢにきす。
榮 爾 歸

【 ミラリキヤの奇蹟者聖ニコライのトロパリ 第4調 】



ぎょうじつはなんぢをぼくぐんのためえにしん
行 實 爾 牧 群 為 信
こののり、おんじゅうのかた、せつせいのきょうし
仰 則 温 柔 か た 、 せ っ せ い の き ょ う し
教師
とあらわせり、ゆえになんぢはひくきをもつ
顯 故 爾 卑 以
てたかきをえ得、まづしきをもつてとみをえ得
高 貧 以 富 え 得
たり。せいせいしゃしんぷニコライよ、
成 聖 者 神 父
ハリストスかみにわれらのたましいのすくわれん
神 我 等 靈 救

こ こと を い の り た ま え 。
祈 給

【 ミラリキヤの奇蹟者聖ニコライのコンダク 第3調 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き い
光 榮 父 子 聖 神 歸

す

せ い な る も の よ 、 な ん ぢ は ミ ラ じ ょ う に あ り て
聖 者 爾 城 在

せ い な る つ と め を お こ な え り 、 こ く し ょ
聖 務 行 克 肖

う しゃ よ 、 な ん ぢ は い り ス ト ス の ふ く い ん に し た が い て 、
者 爾 福 音 遵

な ん ぢ の い の ち を な ん ぢ の ひ と び と の た め に す
爾 生 命 爾 人 人 爲 捐

て 、 つ み な き も の を し よ り す く い た ま え
罪 者 死 救 給

り 。 ゆ え に せ い に せ ら れ て か み の お ん ち ょ う
故 聖 神 恩 寵

の お お い な る ひ み つ しゃ と お な れ り 。
大 秘 密 者 爲

【 聖神降臨聖堂のコンダク 第8調 】



いまもいつもよよに、アミン。
今 何時 世世

しじょうしゃはくだりてしたをみだししとき、しよ
至上 者 降 舌 湊 時 諸

みをわかてり、ひのしたをわかちしと時
民 分 火 舌 頒 時

き、しゅうをひとつにあつめたまえり、
衆 一 集 給

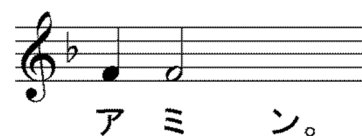
ゆえにわれらどういつにしせいしんをさん
故 我等 同一 至 聖 神 讚

えいす。
榮

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を犯す者を行を棄てずして、其救の爲に痛悔
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こう えい は ち ち と こ と せ い しん
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 殺 聖 常 生 者 我 等
 を
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：^{しゅ な よ き もの あが ほ}主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、^{ぎ もの なんぢ そのくに}ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
^{こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ}の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 第7調 】

司祭) ^{つつし き しゅうじん へいあん}慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん}爾の神にも、

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{ぎじん しゅ ため たの かれ たの}プロキメン、義人は主の爲に樂しみて、彼を恃まん、

ぎじんはしゅのためにたのしみて、かれ
 義人 主 爲 樂 彼
 をたのまん。
 恃

誦經) ^{かみ わ いのり としわ こえ き たま}神よ、我が禱の時我が聲を聞き給え、

ぎじんはしゅのためにたのしみて、かれ
 義人 主 爲 樂 彼
 をたのまん。
 恃

誦經) ^{ぎじん しゅ ため たの}義人は主の爲に樂しみて、

かれをたのまん。
 彼 恃

【 アポστόロス 使徒經 335 端 エウレイ書 13 章 17～21 節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがエウレイ人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、爾等の教導師に順いて、之に服せよ、蓋彼等は神の前に答を爲す

べき者として、爾等の靈の爲に徹醒す、彼等をして悦びて之を行わしめよ、歎息

して行わしむる勿れ、此れ爾等に益なきが故なり。我等の爲に祈禱せよ、蓋我等は善

き良心を有てるを信ず、一切の事に於て善きを行わんことを望めばなり。我が殊に祈

禱を爲すを求むるは、速に爾等に還されん爲なり。願わくは平安の神、永遠の約

の血に由りて羊の大なる牧者たる我等の主イイススハリストスを死より起しし者は、

其悦ぶ所を爾等の中に爲して、其旨を行わん爲に、爾等を凡の善事に全う

せんことを、イイススハリストスに由りてなり。願わくは光榮は彼に無窮の世に歸せん、

アミン。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。わたしたちのために、祈ってほしい。わたしたちは明らかな良心を持っていると信じており、何事についても、正しく行動しようと願っている。わたしがあなたがたの所に早く帰れるため、祈ってくれるように、特別にお願いする。永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アアメン。

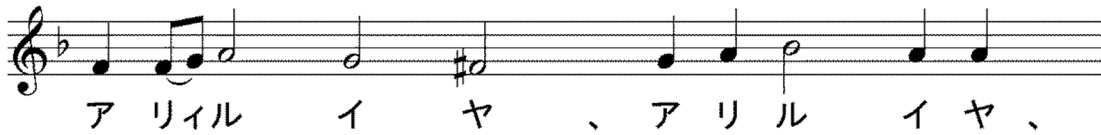
【 アリルイヤ 第2調 】

司祭) 爾に平安、

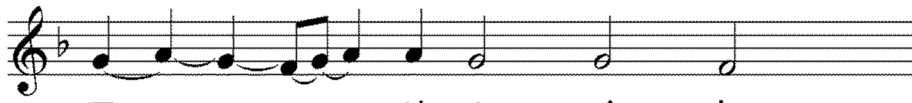
誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) アリルイヤ、

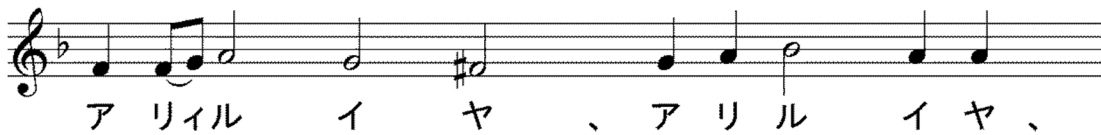


ア リイル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、

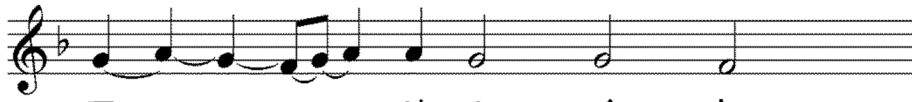


ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{なんぢ}爾の^{しさいら}司祭等は^{ぎき}義を衣、^{なんぢ}爾の^{しよせいしゃ}諸聖者は^{よろこ}悦ばん、

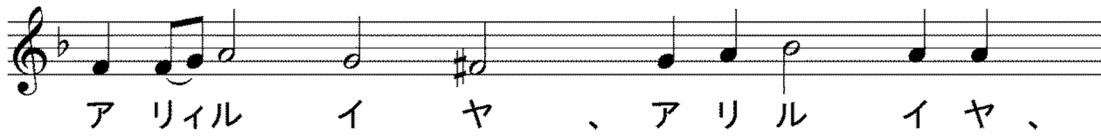


ア リイル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、

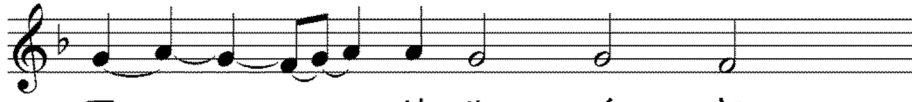


ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{しゅ}主は^{えら}シオンを^{これ}擇び、^{もつ}此を以て^{そのすまい}其住所とするを^{のぞ}望めり、



ア リイル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



ア リル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと}人を^{あい}愛する^{しゅさい}主宰よ、^わ我が^{こころ}心に^{かみ}神を知る^し智慧の^{ちえ}浄^{いさぎよ}き^{ひかり}光を^{かがや}輝かし、^わ我が^{しねん}思念

^めの^{ひら}目を^{なんぢ}啓きて、^{なんぢ}爾が^{ふくいん}福音の^{おしえ}教を^{さと}悟らしめ^{たま}給え、^わ我が^{うち}衷に^{なんぢ}爾の^{ふく}福たる^{いましめ}誠を

^{おそ}畏るる^{おそれ}畏をも^い入れて、^{われら}我等が^{ことごと}悉^{にくたい}くの^{よく}肉體の^ふ慾を^{およ}踏み、^{なんぢ}凡そ^{よろこ}爾の^{ところ}喜ぶ^{ところ}所

を^{おも}思い^か且^{おこな}つ^{ぞくしん}行^{せいかつ}いて、^す属^{いた}神の^{たま}生活を^{けだし}過ぐるを^{かみ}致させ^{かみ}給え、^{かみ}蓋^{かみ}ハリストス^{かみ}神よ、

^{なんぢ}爾は^わ我が^{たましい}靈と^{からだ}體との^{こうしょう}光^{われらなんぢ}照^{なんぢ}なり、^{むげん}我等^{ちち}爾と^{しせいしぜん}爾の^{しせいしぜん}無原の^{しせいしぜん}父と^{しせいしぜん}至聖^{しせいしぜん}至善にし

^{いのち}を^{ほどこ}施^{なんぢ}す^{しん}爾の^{こうえい}神とに^{けん}光^{いま}榮^{いつ}を^{よよ}獻^{よよ}ず、^{よよ}今も^{よよ}何時も^{よよ}世^{よよ}世に、^{よよ}アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン}福音經 ^{ルカ福音書}ルカ福音書24端 6章17~23節 】

司祭) ^{えいち}睿智、^{つつし}肅^たみて^{せいふくいんけい}立て^き聖福音經を^{しゅうじん}聴くべし、^{へいあん}衆人に^{へいあん}平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イイス平地に立てり、爰に其衆くの門徒、及び衆くの民、

イウデヤの四方イエルサリム并にティルとシドンとの海濱よりして、彼に聴かん爲、且己

の病の醫されん爲に來りし者、又汚鬼を患うる者ありき、彼等醫されたり。衆民彼

に捫らんと欲せり、蓋能彼より出でて、衆を醫せり。彼は目を擧げて、其門徒を視て

曰えり、神の貧しき者は福なり、神の國は爾等の有なればなり。今飢うる者は福

なり、爾等飽くを得んとすればなり。今泣く者は福なり、爾等笑うを得んとすればな

り。人の子の爲に人人爾等を憎み、爾等を絶ち、且語り、爾等の名を惡しき者と

して棄つる時は、爾等福なり、其日に喜び樂めよ、天には爾等の賞多ければ

なり。

(比較用 口語訳) その時イエスは平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた靈に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の國はあなたがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りるようになるからである。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。
 爾 歸

※聖体礼儀3（金ロイオアン）へ